

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0791100050		
法人名	富士工業株式会社		
事業所名	グループホームせせらぎ1階		
所在地	福島県田村市船引町船引字上江148-2		
自己評価作成日	平成28年3月20日	評価結果市町村受理日	平成28年6月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/07/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人福島県シルバーサービス振興会		
所在地	〒960-8253 福島県福島市泉字堀ノ内15番地の3		
訪問調査日	平成28年5月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者一人ひとりが、安心して生活できるように、スタッフが統一した支援に努めている。また、家族との繋がりがりや交流を大切に、悩みや要望を共有する事を心がけている。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1. 全職員が理念を共有して、利用者に笑顔で接し、散歩や買い物等を通じて地域と交流を図りながら、楽しく安心して生活が出来るよう支援している。
2. 利用者等の思いや意向に添って、具体的な介護計画を作成し、職員はその計画に沿って支援し、その支援経過記録も良く整備されている。
3. 職員を感染症や摂食・嚥下障害、身体拘束など外部研修に積極的に参加させ、人材育成と資質向上に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝の申し送り時に全員で理念の唱和を行うことにより、常に意識した支援に努めている。	理念を事業所内に掲示すると共に、朝の申し送り時に全員で唱和を行い、共有を図りながら理念に沿った、利用者が笑顔で楽しい生活が送れるよう支援に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	スタッフと利用者が一緒に地域のお店に買い物に行ったり、ボランティアの訪問によって楽しく過ごせるように取り組んでいる。	近隣の商店に買い物に出かけたり、散歩等で挨拶を交わしたり、定期的なボランティアを受け入れる等して、地域との関わりが多くなるよう取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今年度は思うように出来なかった。実践できるように努力していきたい。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度、会議を行い、ホーム内の様子を報告し、意見や要望を取り入れながら、サービス向上にむけ努力している。	会議は定期的開催されており、会議メンバーの参加率も非常に良い。利用者状況や行事の報告、ヒヤリハットや事故の報告、外部評価結果の報告等を行い、メンバーから意見等をもらい、サービスの向上に活かしている。また、防災訓練の観察も実施している。なお、会議録を事業所内に掲示して開示して欲しい。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	電話やFAXなどで、ホームの様子を伝え、状況の把握ができるように、連携しながら協力を頂いている。	事業所の運営状況を報告したり、介護保険制度や生活保護の取扱い等、市担当者とは日頃から連絡を取り合っている。また、市担当者からも逐次情報提供がある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	スタッフが身体拘束に関する研修会に参加し、ホーム内で発表するなど、勉強会を通して全員が正しいケアをおこなえるよう取り組んでいる。	勉強会等を通して指定基準における禁止の対象となる具体的な行為を正しく理解し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。また、家族とは、利用開始時や必要の都度、リスクについて話し合いを行っている。日中、玄関の施錠は行っていない。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	マニュアルを作成し、全員に渡してある。また、入居者に少しの変化でも見られた時には、スタッフ全員で原因を追求し、防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	成年後見人制度を、利用されている入居者がいるので、仕組みについて学びながら支援できるようにしていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の契約時の契約書に基づき、説明を行い、理解を求めている。不安な事や疑問等を尋ね説明している。また、いつでも電話等で説明が出来る様に対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族からの意見や要望を取り得れ、実践できるように努めている。	家族には、訪問時等を利用しながら、意見や要望を聞いている。また、投書箱を設置したり、事業所以外にも第三者機関があることを説明している。利用者には、日々の関わりの中で意見や要望を把握し、それらを運営に活かしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ会議やユニット会議で出た、スタッフからの意見や要望は、管理者が代表者に伝えている。反映されていない事もあるのが現状です。	管理者は、各種の会議や日々の業務の中で声掛けを行って、意見や要望を聞いている。また、代表者も積極的に意見や要望を聞いて、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は、定期的にスタッフからの要望や勤務状況を代表者に報告している。希望休は月3回までとなっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	2ヶ月に一回ほどの間隔で、スタッフ間で勉強会を開き、外部から講師を招き講習会を開いて貰っている。有給を利用し、研修会に参加する事もあるが、報告書を出さなければならない事が大変だという意見もある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域包括支援センターや、他施設と入居の状況などを報告しあい、時間のある時は訪問し様子を見たりしている。		
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	介護支援専門員を中心に、家族や利用者から、話を聞き、要望等に応えられるように努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	話を傾聴し、一人ひとりに合ったサービスが出来るように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	状況が変わってしまった時点で、話し合い必要なサービスが出来る様に心がけている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人様に出来る事はお願いし、お互いに協力して生活をしているという雰囲気を感じられるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族便りや電話を通じ状況を伝え、本人と家族の繋がりを大切にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	冬期間は、感染症の問題がある為、面会を制限しているが、基本的にはいつでも面会が可能となっている。	利用開始時に、センター方式の暮らしの情報を活用しながら、馴染みの人や場所を把握している。気軽に面会が出来るよう声掛け支援している。また、通院時や希望に応じて、馴染みの場所である自宅周辺等に出かけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係を把握し、関わり合い協力し、支えあえる環境づくりに努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も、家族方の相談などに可能な限り応じ、より良い関係を築けるように努めている。		
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望、やりたい事を聞き、出来る様に支援している。出来ない場合は、家族にお願いする事もある。	日々の関わりの中で希望や意向の把握に努めている。また、困難な場合は、声掛けを行い表情の変化等から思い等を推測したり、家族から情報を提供してもらいながら把握に努め、担当者会議の中で課題等を話し合い、本人本位に支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族から、これまでの生活歴や環境などの情報を集め、スタッフ間で共有し、把握できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の中で、心身の状態の変化に気づいた時は、観察し記録をし、連絡、報告、相談し、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の意向や希望に添えるように、話しを聞き、定期的にカンファレンスを開き、介護計画を立てている。	担当者と介護支援専門員が協力しながら、アセスメントを実施し、サービス担当者会議の中で、利用者や家族の意向や、職員の意見等を反映した、現状に即したより具体的な介護計画を作成している。また、入退院等で状態が変化した場合は、変化に合わせてモニタリングを実施して、介護計画の見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日、個別に記録を書き、スタッフ間で情報を共有し、変化があった時は話し合い、介護計画を見直すようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ミーティングなどで、本人の状況と家族の思いなどを話し合い、その時々状況に応じた対応ができるように心がけている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの受け入れや近くの商店に買い物にでかけたり、楽しい生活ができるように努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医を家族の付添いで受診している。状態の変化があった時は、医師に相談し、指示を仰いでいる。また、受診が難しい入居者様は、訪問診療に切り替えている。状態に応じて、スタッフが受診に同行することがある。	希望するかかりつけ医を受診出来、付き添いは原則家族としているが、状況に応じて事業所も支援している。家族が付き添う場合は、事業所から医療機関に、生活状況を報告している。受診結果は相互に連絡し合い共有されている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携の看護師と24時間連絡が取れる状態になっている。いつでも、適切な対応が出来る様に体制をとっている。週一回の勤務日に指導、援助をお願いしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者が入院した時は、定期的に面会に行き、状態を確認したり、主治医から治療方針の説明を受け、情報交換や相談をし、より良いケアが出来る様に連携をとっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に説明し、状態に応じ対応出来るように本人、家族と話しあっている。看取りケアのマニュアルを準備しスタッフに周知している。医療連携も結び、いつでも対応できる体制が出来ている。	契約時に、重度化や終末期の指針を説明し同意を得ると共に、状況変化時に医師や家族、職員が話し合っ方針を共有して支援している。また、対応マニュアルを整備し、研修会を開催し全職員に周知している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故が発生した場合に備え、訓練はしているが、応急手当の講習会を受けるように計画は立てていたが、実行できていない状況です。実施できるようにしていきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月、防災訓練を実施している。消防署には協力してもらっているが、近隣の方、消防団の方へ協力の依頼が出来ていないので、今後、実施できるようにしていきたい。	毎月計画的に火災や地震、非常通報装置等の訓練を実施し、消防署の指導も受けているが、訓練実施記録が整備されておらず、また、地域との災害時の協力体制も整備されていない。	訓練実施記録を整備すると共に、地域との災害時の協力体制の整備を図って欲しい。
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人にあった対応ができるように、スタッフ間で情報を共有し、尊厳を守って対応できるように心がけている。	職員は丁寧な言葉掛けや対応について話し合い、一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない配慮をしている。また、入浴時や排泄時の言葉かけや対応にも、細心の注意を払っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人がどのような生活を望んでいるか、どのような思いがあるのか、会話の中から聞き出すなどして、希望に添えるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人らしい生活が送れるように、その日、その日、やりたい事が出来るように希望に添った支援ができるように心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分らしさを大切にし、おしゃれを楽しめるように支援している。身だしなみについては、髪の毛のブラッシングや歯磨きなどできることはやっていただけるように、支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	調理のお手伝いが出来る入居者には一緒に調理をお願いし、食事前のテーブル拭きなど出来る事をやっていただくようにしている。食事は、スタッフと入居者が同じテーブルを囲んで会話をしながら食べている。	食事の下準備や盛りつけ、下膳やテーブル拭き等を、利用者と職員が一緒に行い、会話をしながら楽しく食事が出来るよう支援している。また、季節感を取り入れた行事食や、誕生会時には好みを反映した食事を提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりに合った食事形態で、提供し、水分がなかなか摂取できない方には、ゼリーなどで対応するなど、工夫している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声掛けを行い、自分で出来る方は見守りし、出来ないは、介助にて行っている。義歯は、毎日、夕食後に洗浄剤に浸け、清潔を保つようにしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の失敗を減らす為、定時での声掛けやトイレ誘導を行っている。水分摂取量や排泄表の活用もしている。	排泄の失敗を減らす為、定時での声掛けや、一人ひとりの排泄パターンを把握し、羞恥心に配慮しながら声掛け誘導を行い、自立に向けた取り組みをしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動を取り入れたり、食物繊維、乳製品を含む食材をメニューに使用し、できるだけ自然排便ができるように工夫している。状態により、個人の下剤を使用することもある。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	その日の体調や状況に応じ、個人に合わせた対応をするようにしている。毎日ではないが、入浴剤を入れゆっくりとお湯に浸かっているようにしている。	週2回午前入浴を原則としているが、希望に合わせて入浴回数を増やしている。また、菖蒲湯やゆず湯、入浴剤を使用して入浴が楽しめるよう支援している。なお、車椅子生活をしている利用者の入浴は、毎回シャワー浴のみ支援となっている。	車椅子生活をしている利用者の入浴支援について、浴槽内での入浴が出来るよう検討して欲しい。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	特に時間は決めず、本人の体調や状態、希望に応じ休んでいただいている。夜間、安眠して頂けるように、日中はレクリエーション等を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	スタッフが、いつでも確認できるように、個人のファイルに薬剤情報を入れてある。薬のセット、確認は、二人で行い、服薬介助時は、入居者にも確認してもらっている。都合により服薬できなかった場合や、状態に変化があったときは、申し送り、スタッフ間で、注意するようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の無理のないように、やりたい事、出来る事をしていただいている。希望により、外出や外泊等、家族に協力を得て気分転換を図るようにしている。行事の計画を立て、季節に合った食事や季節を感じてもらえるような工夫をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望により、散歩や買い物に出かけるように心がけている。家族の方にも協力をして頂いているが、地域の方にも協力して頂けるように働きかけていきたい。	天候の良い時は希望に添って、散歩や買い物、ドライブ等の支援をしている。また、桜やツツジ等の花見や、外食等に出かけたり、家族の協力を得て、ドライブや外泊、墓参り等の支援をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理が難しい入居者が多いので、ホームで管理している。買い物に行った際は、スタッフ付添いのもと、お金を払って貰う事もある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	十分な光を取り入れ、温かみのある空間を作るようにしている。季節ごとに室内の飾りつけを替え、季節を感じてもらえるように工夫している。	観葉植物や季節の花弁、共同作品や行事写真等、季節の飾りつけを行い、生活感や季節感を出している。また、利用者が思い思いにテレビを観たり、ゆったりした農村風景を見て寛ぎ、居心地良く過ごせる共用空間になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者が好きなように好きな場所で過ごせるように、特に制限はしていない。事務所への出入りは控えていただいている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切に本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている	本人の好みに合わせ、家具を配置したり、飾りをしたり、安心して落ち着いた生活が出来るようにしている。	居室はプライバシーに配慮されており、馴染みの家族写真、テレビ、タンス、衣装ケース、椅子等を持ち込み、その人らしく安心して過ごせるよう配慮されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	空間の中の障害物を出来るだけ除き、安全を確保している。不可能なものは、都度、説明したり、表示をして工夫している。		